

令和2年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

たくましく自立・しっかり自律し、学び続ける力を培い、他者理解と協同の心をもって社会に参加・貢献できる人を育む学校

1. 生徒の自立と自律を支援する：様々な背景を理解して寄り添う生徒指導により、基本的な生活習慣と高い規範意識を醸成する。
2. 「確かな学力」を育む：「基礎学力の充実」と「主体的・対話的で深い学び」のある授業改善に取り組む。
3. 中途退学の防止：中学校や外部人材・機関との連携を深めて教育相談体制を充実させるとともに、キャリア教育を推進する。
4. 自他を大切にすることを育む：教職員・生徒相互のコミュニケーションを通して、自己肯定感を高めるとともに、違いを認め他者を尊重する気持ちを育む。
5. 「明るく開かれた学校」：家庭・地域との連携を深め、教育力の強化、地域社会への貢献、安全安心な環境づくりに取り組む。

2 中期的目標

1 変化する社会に対応し学び続ける力を生徒に育むよう、教職員が研修を重ね、「主体的・対話的で深い学び」のある授業改善を推進する。

(1) 質の高い理解を図るための習得・探求・活用の学習過程をすべての授業で実現できるよう、小グループでの学習、対話を手掛かりとした思考活動、体験活動、ICT機器の積極活用などを推進する。

ア 教員間での相互授業見学、公開授業と研究協議を通して、教員の授業力向上と生徒が主体的に学び合う授業改善に取り組む。

イ 少人数展開授業、チームティーチング、個別の支援等を通して、きめ細かい指導を充実させ、基礎学力の定着と学ぶ意欲の向上を図る。

生徒授業アンケートで「授業内容に興味・関心を持てる」(H29:77% H30:75.1% R1:77.4%)を、令和3年度には80%以上をめざす。

2 全ての教育活動を通して規範意識と人権尊重の心を醸成し、安全・安心な学校づくりを推進する。

(1) 基本的な生活習慣を確立し、学校生活を大切にすることを育む。

ア 日常のきめ細かい指導・対話と家庭連絡を通して基本的な生活習慣を確立し、欠席・遅刻を防止する。

生活習慣の改善と中退防止の観点から、欠席・遅刻率を毎年、前年度以下とする。

イ 生徒指導上の課題に対しては、指導方法における教職員の共通認識を深め、チームワークを活かして対応する。

(2) 課題の背景をつかみ取り、生徒に寄り添ったきめ細かい指導と支援を通して、不登校や中途退学を防止する。

ア 高校生活支援カードを活用するとともに、中学校・家庭・専門人材・福祉等の関係機関との連携をさらに深めて、生徒が抱える課題を教職員が共有し、教育相談体制を充実させるとともに、不登校や中途退学の防止に注力する。

イ 障がいのある生徒、外国にルーツのある生徒など、様々な背景を理解し、必要に応じて「個別の教育支援計画」、「個別の指導計画」を組織的に作成して支援にあたる。

生徒・保護者向け学校教育自己診断の教育相談満足度(H29:65.8% H30:73.8% R1:76.4%)を、令和3年度には78%以上をめざす。

中退率・生徒指導事案率を毎年、前年度以下とする。

(3) 自己肯定感と人権を尊重する態度を育み、人間関係づくりを推進する。

ア HRや総合的な学習・探求の時間、学年行事等で、自他を大切にすることを計画的に実施する。

イ 学校いじめ防止基本方針に基づき人権教育を計画的に進め、生徒が自他の権利を尊重し、社会の一員としての自覚を深められるよう取り組む。

生徒向け学校教育自己診断「命の大切さや社会のルール、人権について学ぶ機会がある」(H29:52.2% H30:67.3% R1:72.5%)を、令和3年度には75%以上をめざす。

(4) 教職員の働き方改革を進め健康管理に努めるとともに、ハラスメントの防止、危機管理体制の充実に努め、安全・安心な教育環境づくりを進める。

ア 教職員間の情報共有と協力、業務の効率化、学年・分掌間連携等を進め、長時間勤務の縮減をめざす。

イ 生徒への体罰・ハラスメント、職場におけるハラスメントの防止に向けた校内研修の実施、相談体制の整備に努め、人権が尊重された安全・安心な環境づくりを進める。

3 生徒が将来の展望を描き、自己実現に向けた取組みに打ち込むことができる支援・指導体制を充実させる。

(1) すべての教育活動を通して、勤労観・職業観・自己肯定感を養い、早期に進路目標と展望をもたせる指導を行う。

ア 授業、学校行事・HR活動・生徒会活動・部活動等、すべての教育活動を「常に変化する社会の中で自立することができる人を育てる」という観点から組み立てる。

卒業後に自己実現のための準備に備える者以外の進路未決定率3%以下を今後も維持する(H29:5% H30:3% R1:1%)。

また、学校紹介就職希望者の割合66%以上を今後も維持する(H29:68% H30:66% R1:66%)。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和2年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>昨年度は、一昨年度より生徒・保護者とも、ほとんどの項目で肯定的な回答が上回ったが、今年度は肯定的な回答が昨年度より下回る項目が増えた。それに対し、教職員の結果は、ほとんどの項目で肯定的な回答が上回った。新型コロナウイルス感染症の影響が大きいと思われる。昨年度末からの長期休業、再開してからも夏季休業や冬季休業の大幅な短縮、土曜日授業、また臨時休業などでの行事予定の変更等は生徒が落ち着いて安心して学校生活を送る妨げになったと思われる。その中で、教職員は生徒が安心して安全に学校生活を送れるよう、また学習の保障ができるように体制づくりに尽力してきたため肯定的な回答が上回ったと思われる。生徒の結果では、下回った項目が多い中でも、「先生は、いじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」が昨年度71.8%に対し今年度は89.1%と17.3ポイント高くなっている。また「体育祭・文化祭は楽しく行えるよう工夫されている」「学校で地震や火災などが起こった場</p>	<p>【第1回7月29日】 新校の立ち上げは本当に大変である。これまでにないスタイルの公立高校であり、いろいろなことが試せる。一方で長く伝統のあった勝山高校の生徒をどのように社会へ送り出していくか、その力をどのように生かすか、その苦労がたまっている学校経営計画と感じた。双方向ワイクについて活用してほしい。今まで勝山高校が培ってきた1対1の生徒との関わりの大切さを今後も引き続き、ワイクと同時に1対1の指導も大切に続けてほしい。先生方が目標を掲げて頑張っているのがよくわかる。地域としては全面的に協力していきたい。キャリア教育について、出前授業の要望があれば区役所として対応する。</p> <p>【第2回12月22日】 保護者からの学校教育自己診断の提出率が低いことは、ワイクサービスなどの活用でスマートフォンでできるようにしてはどうか。学校教育自己診断(大阪わかば)の保護者の結果で提出率は低いながらも「大阪わかば高校に入学させてよかった」の肯定的回答が100%なのは大変良い要素である。生徒が人生に困ったとき、必要な情報に辿りつけるかが重要。つまり、生徒が助けを求め力をつけることが必要であり、ワイクはそれをするひとつなので教員は大変だと思うが継続してほしい。コロナ禍においても、感染症予防対策をしながら、文</p>

府立勝山高等学校

<p>合、どう行動したらよいか知らされている」「授業などでビデオ、スライドなどの視聴覚機器やコンピュータなどを活用している」「成績や家庭のことなど個人情報についてプライバシーが守られている」「学校の公式ウェブサイトをよく見る」のポイントが高くなっている。保護者では「子どもの心身の健康について気軽に先生に相談できる」「地震や台風などの場合の対応については、子どもや保護者に知らされている」「学校の公式ウェブサイトをよく見る」が2～5ポイント高くなっている。</p>	<p>化祭・体育祭など学校行事を確保されているのはありがたい。教務部がオンラインを活用して教員間の情報共有を行っているとの報告があった。大変良い取り組みであり生徒にも反映させてほしい。オンライン授業は、学校に来れない生徒も学べる良い方法である。大学では、オンライン授業を行うことで遅刻・欠席が減少した。業務の効率化と新しい学びに繋げてほしい。ネットリテラシーを身につけさせることは喫緊の課題である。勝山・大阪わかば高校は、面倒見が良い。中学校への情報提供をさらに積極的に行ってほしい。</p> <p>【第3回3月17日】</p> <p>新型コロナウイルス感染症による休校で2ヶ月抜けているなか、温かく生徒を送り出せたことはよかった。「勝山高校に入学してよかった」の数値を上げるために何をするのか、結果だけを見て満足するのではなく経過も大切にしてほしい。保護者の学校教育自己診断の結果と生徒の結果を紐づけると教員の指導力向上につながるのではないかと。教員同士の関係性も今以上に築いてほしい。新型コロナウイルス感染症の影響、その中での新校の開校と予測不能なことが多量中、教員の頑張りや生徒に伝わっている。生徒たちがさまざまなことに挑戦するのは周りの環境も大事である。教員もまたしかり。勝山高校があと1年で閉校になることは大変寂しいが大阪わかば高校にも協力していきたい。教員の尽力で卒業生の満足度が高く進路未決定も少ないことは素晴らしいこと。これは教員の挑戦する姿勢が生徒にも伝わっているのでは。生徒たちが主体的に学ぶことが今後さらに重要になってくる。今年度の大変だったことを来年度に生かしてほしい。中学校から送ってお世話になった生徒が「生きる力」を身に付けたことを嬉しく思うとともに感謝します。</p>
--	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>1 変化する社会に対応し学び続ける力を生徒に育むよう、教職員が研修を重ね、「主体的・対話的で深い学び」のある授業改善を推進する。</p>	<p>(1) 安心して学べる環境づくりと、質の高い理解を図る学習過程をすべての授業で実現できるよう、小グループでの学習、対話を手掛かりとした思考活動、体験活動、ICT機器の積極的な活用などを推進する。</p> <p>ア 教員間での相互授業見学、公開授業と研究協議を通して、教員の授業力向上と生徒同士が主体的に学び合う授業改善に取り組む。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・授業規律を堅持し、安心して学びに向かうことができる授業環境を整える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態に合わせ、習得・探求・活用を通して質の高い理解に繋がる学習過程を重視した授業づくりを推し進める。 ・すべての授業を公開し、相互に学び合い、生徒の学びの状況を見取ることができる力をつける。 ・ICT 機器を積極的に活用し、分かりやすい授業づくりを推進する。 ・学期ごとに授業見学週間を設定し、授業見学シートをお互いに交換する。 ・他校の公開授業や外部での授業研究会等の研修への参加を奨励する。 	<p>(1)</p> <p>ア・生徒向け学校教育自己診断「授業では積極的に学ぼうと思うような環境が保たれている」を前年度以上。(R1年度 67.4%)</p> <p>・生徒向け学校教育自己診断「教え方に工夫をしている」を前年度以上(R1年度 75.3%)</p> <p>・生徒授業アンケートで「授業内容に興味・関心を持てる」77%を維持する。(R1年度 77.4%)</p> <p>・生徒向け学校教育自己診断「他の先生が授業を見学に来ることがある」80%以上を維持(R1年度 80.1%)</p> <p>・生徒向け学校教育自己診断「授業で視聴覚機器やコンピュータなどを活用している」を前年度以上。(R1年度 79.1%)</p> <p>・各学期に授業見学シートを3枚以上作成する。</p>	<p>ア・全体では、63.2%と4.2ポイント下回ったが、2年生では68.9%と目標を上回った。3年生は新型コロナウイルス感染症の影響による不安の強い生徒が多かったためと考えられる。()</p> <p>・「教え方に工夫をしている」72.2%(-3.1)であるが「授業で視聴覚機器やコンピュータなどを活用している」84.4%(+5.3)の結果も合わせると達成していると考えられる。()</p> <p>・「授業内容に興味・関心を持てる」77.2%と維持できた。()</p> <p>・「他の先生が授業を見学に来ることがある」81.4%(+1.3)で教員の授業見学が浸透してきている。()</p> <p>・「授業で視聴覚機器やコンピュータなどを活用している」が昨年度 79.1%から84.4%(+5.3)()</p> <p>・休業等により、1学期は授業見学週間を設定できなかったが、2学期には授業見学週間を設定、3学期の授業見学週間は臨時休業と重なった。授業見学シートは、平均して2枚、6枚作成の教員もあった。シートの交換で授業について意見交換がすすんだ。()</p>

<p>2 全学の教育活動を通して規範意識と倫理観の心を醸成し、安全・安心な学校づくりを推進する</p>	<p>(1) 基本的な生活習慣を確立し、学校生活を大切にす る態度を育む。 ア 基本的な生活習慣を確立 する。 (2) 課題の背景をつかみ 取り、生徒に寄り添ったき め細かい指導と支援を通し て、不登校や中途退学を防 止する。 ア 中学校・家庭・専門人 材・福祉等の関係機関との 連携を深め、課題を共有 し、教育相談体制を充実さ せる。 イ 障がいのある生徒、外 国にルーツのある生徒な ど、様々な背景を理解し、 支援する。 (3) 自己肯定感と人権を 尊重する態度を育み、人間 関係づくりを推進する。 (4) 教職員の働き方改革 を進め健康管理に努める とともに、ハラスメントの 防止、危機管理体制の充実 に努める。 ア 業務の効率化、分掌間 連携等を進め、長時間勤務 の縮減をめざす。</p>	<p>(1) ア・生徒の実態把握に努め、遅刻・欠席の原因や背景を探り、対 話による丁寧な指導、家庭との連携、必要な支援を通じて、 相互信頼を深め、遅刻・欠席を防止する。 ・生徒自治会や教員による朝のあいさつ運動など、生徒同士や 教員とコミュニケーションがとりやすい環境をつくる。 (2) ア・高校生活支援カードを活用するとともに、中学校・家庭・専 門人材・福祉等の関係機関との連携をさらに深めて、課題を 教職員が共有し、教育相談体制を充実させ、不登校や中途退 学を防止する。 ・学年団で情報共有と意思統一を図り、協力して生徒支援に臨 めるよう、学年会を月に2回以上開催する。 イ・様々な背景を理解し、必要に応じ「個別の教育支援計画」 、「個別の指導計画」を組織的に作成して支援にあたる ・障がいや配慮を要する生徒の支援に対する教職員の理解を 深める資質向上に取り組む。 (3) イ・学校いじめ防止基本方針に基づいた校内体制を全教職員で堅 持するとともに、人権教育を計画的に進め、生徒が自他の権 利を尊重し、社会の一員としての自覚を深められるよう取り 組む。 (4) ア・教職員間の情報共有と協力、業務の効率化、学年・分掌間連 携等を進め、長時間勤務を縮減する。 イ・生徒への体罰・ハラスメント、職場におけるハラスメントの 防止に向けた校内研修の実施、相談体制の整備に努め、人権 が尊重された安全・安心な環境づくりを進める。</p>	<p>(1) ア・欠席率、遅刻率を昨年度以下とすることをめざ す。 ・生徒向け学校教育自己診断の生徒指導充実度 70%以上をめざす(R1年度68.6%) ・生徒向け学校教育自己診断の入学満足度70% 以上を維持する(R1年度70.3%) (2) ア・生徒・保護者向け学校教育自己診断の教育相談 満足度75%以上を維持する(R1年度 76.4%) ・学年会議を月2回以上開催し生徒支援のため の情報共有を緊密にする。 ・中退率を前年度以下とする。 イ・外部人材と連携した生徒支援に係るケース会議 等を毎月開催する。 (3) イ・学校教育自己診断「命の大切さや社会のルール、 人権について学ぶ機会がある」75%をめざす (R1年度72.5%) (4) ア・教職員の時間外労働時間を前年度以下とする。 イ・教職員向け学校教育自己診断「体罰やセクシュ アル・ハラスメントの防止、人権尊重の姿勢に もつづいた生活指導が行われている」「教育活 動における問題意識や悩みを気軽に相談し合 える職場の人間関係ができていいる」75%をめ ざす(R1年度73.9%)</p>	<p>ア・昨年度に比べ、生徒数に対する欠席日 数は45%、遅刻回数は20%減少した。() ・生徒指導充実度は、69.5%(+0.9)() ・入学満足度は、69.7%(-0.6)() ア・生徒・保護者の教育相談満足度は77% (+0.6)うち、保護者向け学校教育自己診 断「子どもの心身の健康について気軽に相 談できる」80.6%であった。() ・新型コロナウイルス感染症対策のことも あり学年会議は多い月は4回、どの月も2 回以上行い、情報共有を行った。() ・中退率は昨年度より70%減少() イ・ほぼ月に2回開催し迅速に生徒支援に 対応できた。() イ「命の大切さや社会のルール、人権につ いて学ぶ機会がある」67.4%(-5.1)新型 コロナウイルス感染症の影響により生徒向 け講演会等が実施できなかった。() ア・教職員の時間外労働時間は昨年度より 10%減少した。() イ・「体罰やセクシュアル・ハラスメントの 防止、人権尊重の姿勢にもつづいた生活指 導が行われている」76.1%(+4.4)「教育 活動における問題意識や悩みを気軽に相談 し合える職場の人間関係ができていいる」 76.1%(昨年度と同じ)()</p>
<p>3 生徒が自己実現に打ち込むこ とができる 支援・指導体制 を充実させる。</p>	<p>(1) すべての教育活動を通 して、勤労観・職業観・ 自己肯定感を養い、早期に 進路目標と展望をもたせる 指導を行う。 ア 入学時より3年間を見 通した計画的・系統的なキ ャリア教育を推進する。</p>	<p>(1) ア・進路指導部と各学年が密接に連携し、職業観、勤労観、自己 肯定感を養う学習プログラム、体験学習等を充実させ、3年 間で系統立てたキャリア教育を実践する。 ・インターンシップ、企業見学、オープンキャンパス等への参 加、講習や資格試験の受験など奨励・推進する。</p>	<p>(1) ア・生徒向け学校教育自己診断の進路学習及び進路 情報に対する満足度75%以上を維持する(R 1年度75.9%) ・卒業後に自己実現のための準備に備えるもの以 外の進路未決定率を維持する。(R1年度未 1%) ・職業観育成プログラムへの参加率を前年度以上 とする。(R1年度10%)</p>	<p>ア・進路学習及び進路情報に対する満足度 73.6%(-2.3)新型コロナウイルス感染症 の影響で体験学習等が実施できなかった。 () ・進路未決定率0%() ・新型コロナウイルス感染症の影響で職業 観育成プログラムは実施できなかった。 ()</p>